

総合資源エネルギー調査会
省エネルギー・新エネルギー分科会 省エネルギー小委員会
建築材料等判断基準ワーキンググループ（第18回）
議事要旨

1. 日時：令和6年7月26日（金曜日） 10時00分～12時00分
2. 場所：経済産業省別館11階 1107会議室（※対面及びオンライン開催）

3. 出席者：

委員

田辺座長、井上委員、岩前委員、加藤委員、鈴木委員、中村委員、
二宮委員、前委員、山下委員

オブザーバー

（一社）日本サッシ協会、（一社）板硝子協会、樹脂サッシ工業会、全国
複層硝子工業会、（一社）住宅生産団体連合会、国立研究開発法人 新エ
ネルギー・産業技術総合開発機構、（一社）日本建設業連合会、国土交通
省住宅局、地球環境局地球温暖化対策課地球温暖化対策事業室、経済産業
省製造産業局生活製品課、経済産業省製造産業局素材産業課

事務局

経済産業省資源エネルギー庁省エネルギー・新エネルギー部省エネルギー課

4. 議 題：

- 1 中高層共同住宅用サッシにおける性能値算定方法について
- 2 サッシ及びガラスに関するとりまとめ（案）について
- 3 中高層共同住宅用サッシの目標基準値算出方法について
- 4 「その他建築物等」用窓の熱損失防止性能に関する指標について

5. 議事要旨：

議題1 中高層共同住宅用サッシにおける性能値算定方法について

資料1について事務局から説明を行い、中高層共同住宅用サッシにおける
性能値算定方法としては、建築研究所公表の計算方法を採用することについ
て了承された。

議題2 サッシ及びガラスに関するとりまとめ（案）について

資料2について事務局から説明を行った。委員からの主な指摘内容は以下
のとおり。

- ・「はじめに」の部分について、新築においては、2030年にかろうじてZEH
基準の水準を達成すれば良いとも読める内容になっているが、2050年に
はストック平均でZEH基準の水準を達成する必要がある。よって、新築で

はZEH基準の水準を大きく超えた断熱性能を早期普及させることが重要。

議題3 中高層共同住宅用サッシの目標基準値算出方法について

資料3について事務局から説明を行った。委員からの主な指摘内容は以下のとおり。

- ・モデル建物の設定について、片廊下型は最近のマンションではほとんど見られないと思われるため、実態を調査する必要がある。
- ・各地域の平均Ua値から求められる窓の性能値を算出するための換算係数について、温暖地の換算係数を寒冷地にそのまま準用するのは無理があるのではないか。壁その他の断熱材の使用を想定し、必要なUw値を求めるべき。
- ・建材TR制度では内窓は評価しないこととなっているが、改めて内窓を評価する方法を検討できないか。
- ・二重窓については外窓の複層化を進めることも必要。
- ・寒冷地においては、断熱と経済性との両立のため、二重窓が主流であることから、今よりも二重窓が増えるという前提の検討も行うべき。
- ・十数年前の超高層マンションでもLow-E複層ガラスを使用した窓が使われている。単板ガラスの窓が一定数残るのは理解できるが、実態との照合をすべき。

議題4 「その他建築物等」用窓の熱損失防止性能に関する指標について

資料4について事務局から説明を行った。委員からの主な指摘内容は以下のとおり。

- ・中高層共同住宅における冷房負荷や眺望等の観点を踏まえると、日射遮蔽性能を建材TR制度の中にも取り込むべきであり、指標を一つとしている建材TR原則については、考え直してもよいのではないか。
- ・中高層共同住宅は戸建や低層共同住宅よりも日射の影響が大きい。窓の性能表示制度も活用し、トップランナーで扱うかどうかによらず、熱貫流率に加えて、日射熱取得についても設計者にしっかり考慮していただくべき。
- ・窓からの日射熱の影響について、既存の広報も活用し、一般消費者への情報提供の強化ができるとうい。
- ・とりまとめにおいては、消費者への日射取得率に関する情報提供を、事業者の取り組むべき事項として、記載いただきたい。

以上

お問合せ先

資源エネルギー庁省エネルギー・新エネルギー部省エネルギー課

電話：03-3501-9726

FAX：03-3501-8396